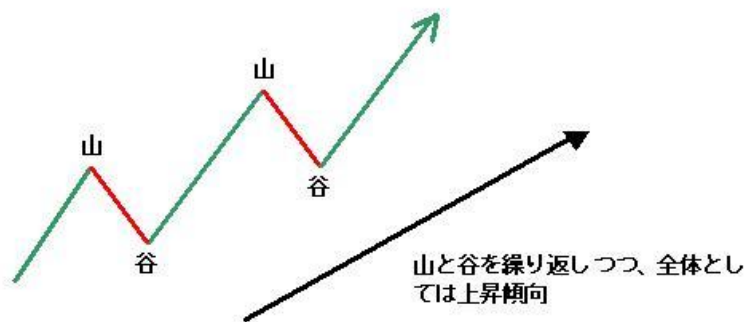


トレンド

1.トレンド基礎

トレンドとは「傾向」とか「方向性」と訳され、相場の動く方向の事です。相場の動きは、上げ・下げ・膠着の3種類あるため、トレンドにも分類上、その3種類あります。

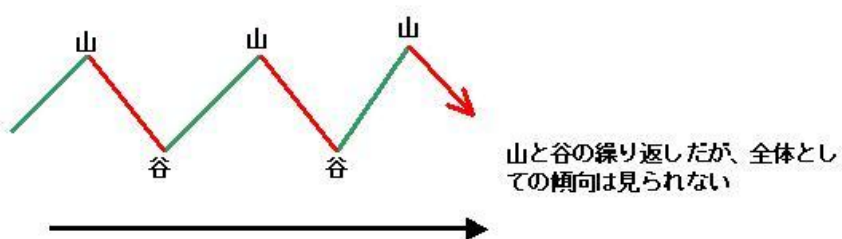
上昇トレンド



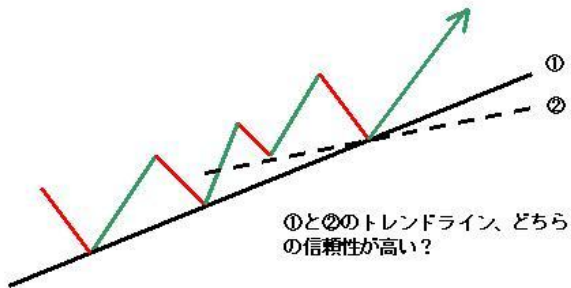
下降トレンド



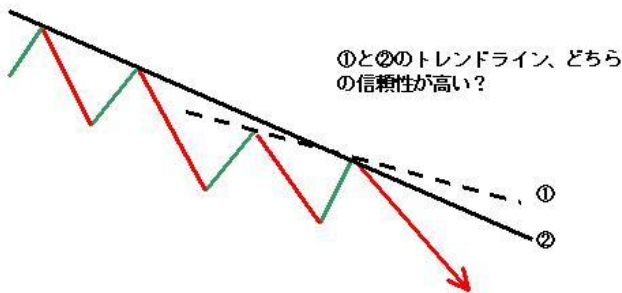
横ばいトレンド



上昇トレンドライン



下降トレンドライン



図のように上昇トレンドラインは切り上がる安値と安値を結んだラインを引き、下降トレンドラインは切り下がる高値と高値を結んだラインを引きます。ラインを引く際には、2点よりも3点を繋ぐ方が良いとされています。

ラインを結ぶ値は、人によって最高値（もしくは最安値）を採用する人もいれば、寄付（もしくは引値）を採用する人もいます。正解はないので、**トレンドラインはかなり主観的なもの**になります。つまり人によって引いた線は異なってきます。

トレンドラインは日足・週足・月足いずれについても引くことができますが、一般的には**長期のものほど重要視されます**。

日足で上昇トレンドに見えても、週足で見れば下降トレンドにある場合も多いので**トレンドを見る時は長期→短期という流れで見る習慣をつけておきましょう**。

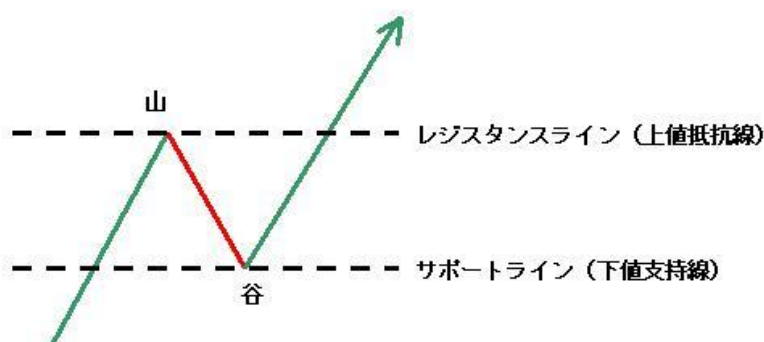
2. トрендにおけるサポートとレジスタンス

上昇トレンドも下降トレンドも、上昇（下降）の後、一度下落（上昇）し、また上昇（下降）。この動きの繰り返しです。

この動きによって安値（谷）と高値（山）が出来ます。

この**谷の地点をサポート、山の地点をレジスタンス**と言います。

サポートとレジスタンス



サポートは、この谷で止まって上昇に転じたことになり、売りよりも買いの勢いが勝っていたことになります。

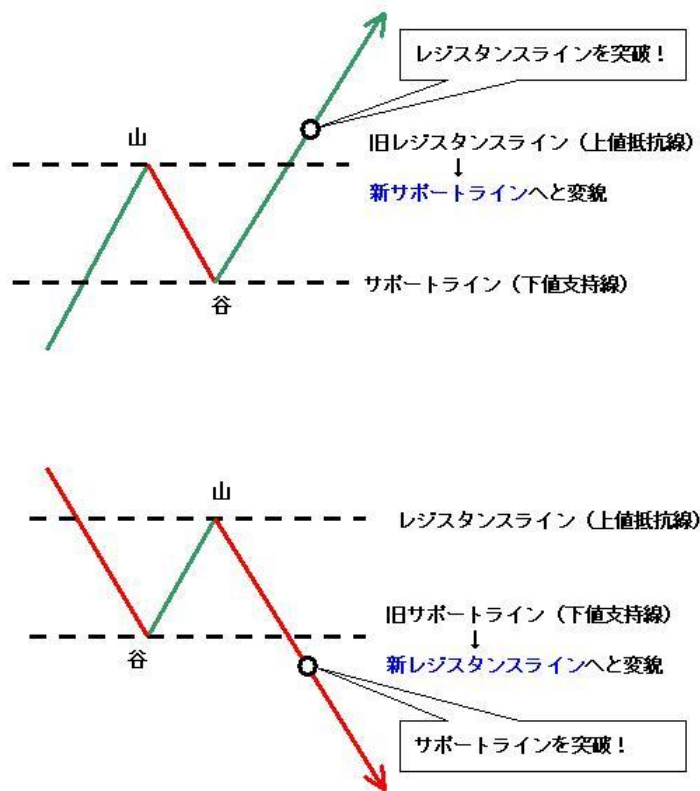
つまり、この谷は**値の下落を食い止める下支え（支持＝サポート）の地点と考えることが出来ます。**

一方、レジスタンスはその逆で、買いよりも売りの勢いが勝っていたことになります。

つまり、この山は**値の上昇を食い止める抵抗（＝レジスタンス）の地点と考えることが出来ます。**

サポートとレジスタンスの地点を把握しておくで、上昇トレンド中の戻し（下げ）のメド、下降トレンド中の戻し（上げ）のメドをつけやすくなります。

サポートとレジスタンスの逆転



上昇トレンドの場合、一旦谷をつけてから反発してレジスタンスを突破した時点で、**今までのレジスタンスラインが新しいサポートラインへと変化します。**旧レジスタンスを突破しても、当然そのまま上げ続けることはありません。いずれ新たな山を形成し落ちてきます。その時、以前突破した新サポートライン（＝旧レジスタンスライン）が値の下落を食い止める下支えとなるわけです。もし、この時に新サポートラインを下抜けてしまうようだと、今までの上昇圧力に陰りが出てきます。トレンドの転換の可能性もあり得ます。

下降トレンドの場合は反対に**サポートラインを突破して下げた場合にはそれが新しいレジスタンスとして機能します。**もしその下げが一時的で上昇余力があれば、新レジスタンスライン（＝旧サポートライン）の抵抗圧力をものともせず上抜けるでしょう。しかし新レジスタンスの前で失速して再度下に向かうようであれば、やはりトレンドは下向きであると言えます。

3. トレンドの注意点

「横ばいトレンド」というものが存在します。
上でもなければ、下でもないという膠着状態のことです。

トレンドと名称がついていますが、実態の方向性はありません。
分類上の名前だけだと理解して下さい。

ただし、この「横ばいトレンド」が現実の相場では結構重要です。
実際の相場では方向感がない動き、つまり膠着した状態がかなりあります。

このような膠着状態の相場にはどのように臨めばよいでしょう。

基本的に相場に方向性が確認出来ないわけですから、**無理して相場に参加してはいけません。**

ポジションを持たないというポジションも大切ですので、無理してこの時にポジションを持たないようにしましょう。

膠着状態の時は様子見に徹すると良いでしょう。

トレンドが発生したときに、トレンドに乗ることが大切です。